



mjet

# ミンガラバーMJET News Letter

13-3-504, Minami Motomachi, Shinjuku-ku, Tokyo Japan 160-0012  
Tel: 03-3353-6377, Fax: 03-3353-6377, E-mail: info@mjet-tokyo.com



## 2019年度事業計画と予算を承認

4月17日、2019年度年次総会が開催されました。出席者は正会員数23名中、本人出席8名、委任状6名、計14名でした。

2018年度の事業実績と決算を承認するとともに、2019年度の新規事業計画と予算が承認されました。主な論点は以下の通りです。

### ★2018年度活動報告と決算報告

- 「参加型エコツーリズム事業」では、839本を East Phar Saw 村(463本)と Thant Sin Kyae 村(376本)に植林した。
- インダイン村の「ゴミ収集・処理プロジェクト」で開発されたインダイン・モデルを他の村に普及するための、進捗状況を把握するためのワークショップ Thant Sin Kyae 村で開催した。
- 「ミャンマー青少年支援事業」では、2017年5月より日本語教室において、小中学生対象の初級と学生・社会人対象の中級が開始された。奨学金は2017年度分を20名に授与した。
- 「国際開発フィールドワーク支援事業」には、茨城大学の女子学生2名が参加し、事前の勉強会により調査計画を策定し、現地で村人に対して面談と調査票による調査を行った。
- 決算報告では、合計750,101円が次期繰越となる。

### ★2019年度事業計画と予算案

- 役員体制は非改選期に当たり、前期に引き続き藤村会長(事務局長を兼務)菊池副会長、神田理事、平湯理事、藤本監事が運営することを確認した。
- 「参加型エコツーリズム事業」のツアーは、8月17日(日本出発日)から8月26日(帰国日)の旅程で、前年に引き続き East Phar Saw 村で500本の植林を予定する。
- 植林ツアーの参加学生については、昨年同様学部3,4年生を中心に、5人を募集し、卒業論文のテーマを見つけるためのフィールド・ワークを実施し、これに助言・支援を行うこととする。
- 「ミャンマー青少年支援事業」については、従来の奨学金に加え、運営費の支援を行うこととし、奨学金に2400ドル、運営費補助に50万円を充てる
- 「ゴミ収集・処理」プロジェクトは、7つの村の進捗状況を把握するためのワークショップを開催する。
- 「広報事業」では、5月25,26日開催予定の「ミャンマー祭り」に本年度も参加する。
- 「学生部の活動」では、バガンの小学校の環境教育改善の進め方について、先生達と十分討議・検討して新規モジュールを開発する。同時に在日ミャンマー人留学生との交流を深める。

## ミャンマー祭に出店！

5月25, 26日、芝増上寺において、ミャンマー祭が開催され、フルテントのブースを借りて MJET を PR すべく出店しました。



お店番をする神田さんと山田さん



安倍昭恵夫人がブースを訪問されました

今年はいつものように、ミャンマーの漆器、スカーフ、アクセサリー、衣類等の商品を販売するバザーを行いました。計23,300円の売り上げがありました。漆器のお盆は値段が4000円とやや高かったので、あまり売れませんでした。専ら小物のアクセサリーが良く売れました。竹製のスマホ乗せ用イスは、ロシアの人が買ってくれました。





# ミンガラバーMJET News Letter

13-3-504, Minami Motomachi, Shinjuku-ku, Tokyo Japan 160-0012  
Tel: 03-3353-6377, Fax: 03-3353-6377, E-mail: info@mjet-tokyo.com



## 7村の植林地をモニタリング！

3月5日から7日まで、これまでに植林した村々の苗木の成長ぶりをモニタリングしました。

### Thant Sin Kyae 村

第28小学校の敷地内に植林された木々はタマールを中心に順調に生育している。池の傍の枯れたチークの代わりに植林された苗木の生育はやはり良くない状況が続いている。



立派に育った木々



池の傍の代替苗木

### Kone Tan Gyi 村

2016年の7月にNature Loversの協力で、全面的に植え替えが行われ、その後順調な成長を示している。今回、それらの苗木が急速に成長している姿が非常に印象的であった。



小学校の裏の苗木



小学校の横の苗木

### West Phar Saw 村

植林された村の集会所は整備され、付近の苗木は集会場の構内に取り込まれ、管理が行われている。他方、小学校の校庭は殆ど枯死状態にある。



宗教集会所の傍の苗木



村民の集会所傍の苗木

### Chaukkan 村

学校の構内ではチークが順調に成長しており、学校により追加で植樹されている。他方、奥の共有地の苗木は雑草に負けつつある。また、苗木の生長点がヤギ等の動物によって、食べられた被害がかなり見られた。



植林した苗木の被害



比較的成長したチーク

### Phyauk Seik Pin 村

土壤が粘土質で活着率が悪く補植が必要である。木の杭に有刺鉄線をはって家畜の食害を防ぐ措置がされていたが、杭がシロアリに食われ倒れている箇所が多くた。



生育が良くない植林地



比較的良好な植林地

### Indaing 村

2012年と2013年に植林を行ったが村の入り口の右側の奥の方半分が枯死しているものが増えている。他方小学校前の道路、小学校横および「山口仁秋記念の森」の部分は、良く活着し生長している



昨年植えた苗木



小学校の前の苗木

### Indaing 村

2012年と2013年に植林を行ったが村の入り口の右側の奥の方半分が枯死しているものが増えている。他方小学校前の道路、小学校横および「山口仁秋記念の森」の部分は、良く活着し生長している



山口仁秋記念の森



村の新しい給水塔



mjet

# ミンガラバーMJet News Letter

13-3-504, Minami Motomachi, Shinjuku-ku, Tokyo Japan 160-0012  
Tel: 03-3353-6377, Fax: 03-3353-6377, E-mail: info@mjet-tokyo.com



## シャン州のエコツーリズム候補地を訪問

モニタリング調査を終えて、シャン州のエコツーリズムの候補地を訪問した。今回は Heho から南西へ 23 Km 行った Kalaw という町とそこから北に 4.5 Km 行ったところの Pindaya にある洞窟を訪れた。



Kalaw の町は標高 1310m で 1 年中涼しい避暑地である。平地は比較的少なく、なだらかな丘に囲まれているといった感じの、人口約 20 万人の町である。コロニアル風あるいは欧風の建物が多い。Aung Din さんの林業省時代の先輩・同僚や昔のガイドの研修生がいて、一緒に夕食をする機会があったが、シャン料理は大変美味しく楽しい夕食をとることができた。

翌日は滝を見るために遠出をした。4 時間ほどのドライブと急峻な山道を下り、上りしてやっとの思いで見たのは、日光の華厳の滝にも似た 130m あまりの細長い滝であった。乾期だから、特に水量は少なかった。この下りと上りの細い道は歩くのが大変で膝ががくがくしてきた。



ついに松岡さんは滝に届くほんの少し前でギブアップされた。膝の古傷が痛くなつたから。

翌日は Pindaya というところにある洞窟の仏様を見に行つた。数千の仏像が洞窟の中に燐然と輝いている。このような洞窟に仏像がたくさんある場所は、ミャンマーに何か所かあるらしい。とても神秘的で、仏教が住民の生活と密接に関わっていることが伺われる。



## ラカイン州のミャーウー遺跡

ラカイン州は 1429 年から 1784 年まで「アラカン王国」が栄えた地域であり、その領土はバングラデッシュのチッタゴン地域まで及んでいたとされる。この時期は仏教徒とモスレムは平和に共存していたと言われている。

アラカン王国の首都は今日の「Mrauk」(ミャーウー)にあったといわれ、その遺跡が世界遺産に登録されるよう、準備中である。このため、出来るだけ早くこの地を見ておきたいと、シットウェイとミャーウーを訪問した。



王国の首都の模型



王宮の跡

ミャーウーの中央部にあるパレスは、1784 年のコンバウン王朝との戦闘で破壊され、石垣のみが残されていた。パレスの中には博物館があるが、殆ど石の台座や柱のようなものが展示されているのみで、英語の注釈も少ない。パレスの外には北側、東側、南側に多くのパゴダと寺院が残されている。形はバガンとは全く異なり、インドネシアのボルブドールを思い起こさせる釣り鐘を並べたようなパゴダが特徴的である。



Lemyethna 寺院



Koe Thaung 寺院

ミャーウーの観光資源は未開発で、インフラも不十分だ。道路標識も明確でない。観光客が食事に行くレストランも限られている。ミャーウーの人口は約 20 万人。乾期には気温が 12~13 度くらいに下がるが、年間降雨量は 1200 mm で比較的過ごしやすい。2011 年には大きな洪水が起きた。今後、世界遺産に登録されれば、観光客のための施設も徐々に改善されるであろう。

現在、ラカイン州では「ロヒンギャ」といわれるモスレムと「アラカン族」の仏教徒との対立に加えて、アラカン族の反政府組織である「アラカン軍」と国軍との戦闘が 1 月 4 日から発生し、治安状況が悪化してきている。1 日も早い平和を祈りたい。